韓国国立ソウル聾学校との国際交流

～３年目第２回の交流を中心に～

廣瀬　由美・半沢　康至・有馬　里佐・徐　基弘（韓国国立ソウル聾学校）

本校中学部では 2013 年度より韓国国立ソウル聾学校との教員間交流を開始し、翌 2014 年度からは生徒同士によるオンライン交流を始めた。生徒間での交流 3 年目を迎えた 2016 年度の第 1 回は過去 2 回と同様、自己紹介を中心とした内容で交流を行い、第 2 回はこの年がオリンピック・イヤーであったことから本校中学部生徒が文化祭展示で取り組んだオリンピック・パラリンピック・デフリンピックをテーマとした交流を行った。韓国でも 2018 年冬季オリンピック開催を控えていることもあり、お互いに興味をもって意欲的に取り組むことができた。今後、よりグローバル化が進む社会で多様な価値観を共有しながら生きていくためには、このような交流の経験の積み重ねが必要であると考えている。

キー・ワード：国際交流　オンライン交流　相互文化理解　グローバル化

1　はじめに

有馬ら(2017)では、本校中学部と韓国国立ソウル聾学校との交流に向けた取り組み、これまでの交流の流れ、内容、成果について、2015 年度の取り組みを中心に報告した。

ソウル聾学校との生徒間オンライン交流も 3 年を経て、各年度第 1 回の交流については、内容が自己紹介、学校紹介等で定着してきている一方、第 2 回の交流は年度によって文化祭に向けた取り組み等と関連付けながらそれぞれ独自のテーマで進めている。今回は 2016 年度第 2 回の交流を中心に交流の内容や留意した点、成果について報告したい。

2　2016 年度第 2 回の交流の内容

(1) 文化祭展示に向けた取り組み

11 月初旬に行われる文化祭の学年会の発表テーマについて 9 月から話し合いを始め、文化祭全体のテーマ「芽～新たな未来に向かって～」を踏まえ、未来を志向し 2020 年の東京オリンピックまでを含めたオリンピック、パラリンピック、デフリンピックを扱うことに決定した。展示のタイトルを「Athens1896→Tokyo2020 ～オリンピックの歩み～」とした。

その後、「歴史」「選手」「競技」「パラリンピック・デフリンピック」という 4 つの作業グループを決め、グループごとに参考書籍、インターネット等で情報を集め、それを元に展示物の文章を考え、模造紙にその内容をまとめた。展示物の内容については Table 1 のとおりである。

Table 1　各グループの展示内容

グループ名	展示の内容
歴史	オリンピックの歴史、年表、日本の獲得メダル数の推移、次回冬季オリンピック平昌オリンピックの紹介、メダルの規格等
競技	中学部内のアンケートで上位になった種目の紹介、東京オリンピック追加種目の紹介等
選手	中学部内アンケートで上位になった選手についての紹介、東京オリンピックで活躍が期待される選手の紹介、メダリストの出身地地図作り等
パラリンピック・デフリンピック	パラリンピック・デフリンピックの歴史、種目、デフリンピック開催地一覧表等

(2) 交流に向けた取り組み

文化祭後、文化祭準備の際の 4 つのグループで、展示発表の内容についての説明、クイズ問題、質問を準備した。文化祭準備の際は選手グループなどでは日本についての内容が中心であったため、ソウル聾学校との交流ということを考慮し、韓国がメダルを獲得した種目や選手、ソウルオリンピック、平昌オリンピックについて新たに調べ学習を行いながら、クイズを作成したり、質問を考えたりしていった（Fig. 1）。

選手グループ 展示の紹介

11 月に行われた文化祭で、私たち選手グループは、リオ・オリンピックの日本人メダリストの出身地やリオ・オリンピックで活躍した選手についてについて調べて発表しました。メダリストの出身地を日本地図にまとめるのにとても苦労しました。

Fig. 1　展示の紹介

クイズや質問は日本語と韓国語で示せるよう、教員が翻訳サイトを利用して翻訳した（Fig. 2）。

스케이트 쇼트 트랙의 1 주 길이는 몇 미터입니까?

A 112.12m

B 222.24m

C 333.36m

Fig. 2　提示した翻訳文の例
（スケートショートトラックの１周の長さは何mか？）

(3) オンライン交流当日の様子

オンライン交流は 12 月 20 日に行われた。挨拶等を終えた後、オリンピック・パラリンピックについてのクイズを出し合った。日本からは文化祭の展示発表で調べた内容や交流に向けて調べた内容を中心としたクイズ、韓国からは 2018 年の平昌オリンピックに関する内容のクイズが出された。
また、韓国と日本の手話に関するクイズも出され、「同じ表現だ！」「日本とちょっと違うね」等の声が上がり、積極的な交流が見られた。

3　生徒対象の質問紙調査の結果

ソウル聾学校との交流の後に、文化祭展示やソウル聾学校との交流に向けた活動について、生徒達にアンケートを取った。

(1)　活動に対する意欲

まず、「文化祭展示や交流に向けた活動に意欲的に取り組めたか」について「とても意欲的だった」、「意欲的だった」、「あまり意欲的でなかった」、「全然意欲的でなかった」の 4 件法で尋ねた結果は、「とても意欲的だった」が 4 名、「意欲的だった」が 8 名、「あまり意欲的でなかった」が 2 名であった（Fig. 3）。「あまり意欲的でなかった」を選んだ生徒 2 名も理由として「調べる時、余計な物を調べてしまったから」というようなことを挙げており、必ずしも意欲がなかったわけではないことがうかがわれた。

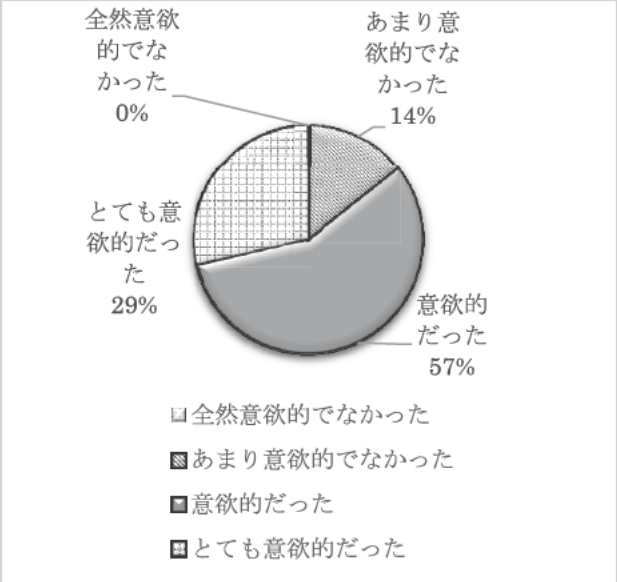

Fig. 3　活動に対する意欲

(2) 活動に対する満足度

「活動に取り組んでよかったと思うか」について

「とてもよかった」、「よかった」、「あまりよくなかった」、「全然よくなかった」の4件法で尋ねた結果は、「とてもよかった」が 10 名、「よかった」が4名であり、満足度が高かったことがうかがえる。

また、その理由としては「みんなの団結力が高まったりしていてよかったと思うから。」、「歴史や競技等今まで知らなかったことをたくさん学ぶことができ、知識を増やすことができ、楽しかった。」、「4年に1回の理由や東京オリンピックの期待の星とかいろいろ知れたうえで 2018 年の平昌オリンピック、2020 年の東京オリンピックを楽しんでいきたいと思ったからです。」、「知らない人のために伝えるのが良かったです。僕は一生けんめいにがんばったからです!!」、「ソウルのみんなが笑ってくれたり、なるほどと言ってくれたりしたから、よかった。」のような記述があった。

このような記述から、生徒達が主に日本の人に伝えることを想定した文化祭と外国の方に伝える国際交流では伝えるべき内容や質問すべき内容が異なってくることに気づけたこと、そのような活動に意義を見出せていることが分かる。

また、このような活動を通して、相手国で行われるオリンピックについての関心が高まり、それを持続させることの可能性も示唆された。

4　まとめと今後の展望

生徒達が日々の生活を送っていく中で、生徒達の関心はどうしても学校の行事や友人、テレビ番組等身近なものに集まりやすい。しかし、きっかけがあれば、諸外国の文化や社会制度等にも関心をもち、知識や理解を深めることができる。また、必要に応じた支援を行うことで、高い意欲をもって、工夫を凝らしながらコミュニケーションを取り、充実した活動を行うことができる。

今後、よりグローバル化、そして多様化が進む社会の中で、多様な価値観を共有しながら生きていく人材を育てていくためには、このような交流の経験の積み重ねが必要であると考えている。

〔付記〕

本研究は、平成 29 年（2017 年）全日本聾教育研究会秋田大会第 10 分科会（進路・キャリア教育）で発表したものに加筆したものである。

〔参考文献〕

眞田里佐・佐坂佳晃(2015) 韓国国立ソウル聾学校訪問.聴覚障害,70(1),66-65

眞田里佐・藤田正樹・徐基弘(2016) 韓国国立ソウル聾学校との国際交流.筑波大学聴覚特別支援学校紀要.38.46-51

有馬里佐・太田康子・西分貴徳・徐基弘(2017) 韓国国立ソウル聾学校との国際交流　～３年間の取り組みを通して～.筑波大学聴覚特別支援学校紀要.39.52-55